



運動場は一つ
被災地ボランティア記⑩

東日本大震災から早 十一日の節目の前後に
や二年が過ぎた。三月 マスコミは震災のこと

るが、残念ながら復興
に向かつての良いニュ
ースはほとんどない。
公営復興住宅の建設

はなかなか進まず、仮
設住宅の使用期限は一
年延長されるらしい。
今年の冬は特に寒
く、東北地方の寒波の
ニュースに



五つの学校が入る仮設校舎



看板には
五つの学校の
名前が並び
ち、一人住

大榎町立 小学校・中学校仮設校舎
大榎町立 大榎小学校
大榎町立 大榎安渡小学校
大榎町立 大榎赤浜小学校
大榎町立 大榎北小学校
大榎町立 大榎中学校

まいの高齢者が一割を
占め、要介護の人が増
えているという。心の
痛む話ばかりである。
仮設は住宅だけでは
ない。学校の校舎も仮
設である。大榎町の四
つの小学校と一つの中
学校、つまり五つの学
校が今、一つの仮設校
舎で勉強している。

学低学年の学童保育を
一日だけお手伝いした。
学童保育は学校の授
業が終わったあと、あ
るいは冬休み中などに
共働きや母子、父子家
庭の児童が過ごす場。
私が小さいころはその
ような制度はなく、母
子家庭の自分は「鍵っ
子」と呼ばれ、寂しい思
いをした体験がある。

改めて
被災地が
抱えてい
る数々の
問題に自



学童保育の手伝いをするスタッフ

あの勉強の手伝い、そ
のあとは私の司会でピ
ンゴ大会をした。
そして予定外だった
のは、子どもたちと一
緒に運動場に出て走り
回ったことである。こ
れは子どもたちの希望
でもあり、大変、喜ん
でいた。
先生に聞くと、仮設住
宅近辺には子どもが遊
ぶ広い空間はほとんどな
く、学校でも仮設校舎に
は一つの運動場しか
ない。それを五つの学校が
使用しているのだから、
自由に走り回る機会が
少ない。

分が無知であることに
気づいた。一時的に被災
地を離れ、転校した子ど
もたちがそのまま大榎
に帰って来ないなど、復
興が遅れる中で被災者
は私たちが知らないたく
さんの問題の中で苦し
ながら生活しているの
だ。かといって自分に何
ができるだろうか？
もう一度大榎を訪
ね、一国民として何が
できるかを考えてみたい
と思う。「東日本の復興
なくして、日本の復興は
ない」がスローガンで終
わってはならない。



たくさんのプレゼントを
用意してピンゴ大会